

Vol. 118

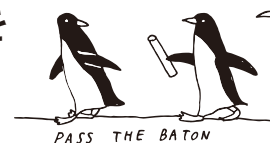
## CONTENTS

- 【コラム】縦横連携で小中高大一貫の情報教育実現を…村松 浩幸  
【解説】大学入学共通テスト新科目「情報」～これまでの経緯とサンプル問題～…水野 修治  
【解説】大学入学共通テスト「情報」試作問題（検討用イメージ）と私感…中野 由章



## COLUMN

### 縦横連携で小中高大一貫の情報教育実現を



大学入学共通テストの「情報」導入について、サンプル問題が公開されたこともあり、世間の注目が集まっている。情報科における免許外教科担任の多さにも注目が集まり、改善の動きも少しずつが見えてきた。また、小学校のプログラミング教育必修化も開始された。GIGA スクール構想による1人1台端末の活用が始まれば、小学校のプログラミング教育も本格的に動き出すことが期待される。

中学校においても情報教育は進んでいる。プログラミングなどの情報技術を教えるのは、技術・家庭科技術分野（いわゆる技術科）である。あまり知られていないが、平成20年告示中学校学習指導要領での制御系プログラミング必修化は、世界的にもかなり早い対応であった。平成29年告示中学校学習指導要領ではネットワーク系プログラミングも追加されるなど、ある意味高等学校よりも先行している。もちろん授業時数不足や免許外教科担任の多さなどの問題も抱えており、高等学校と同様に早急な改善が必要である。

このように各学校段階で情報教育の取り組みは進みつつあるが、残念ながら、学校段階間での情報共有や連携は、中高一貫校などを除けば、ほとんどなされていない。よく聞くのが、「小学校によりバラバラだ」、「中学校、また高等学校ではこんなことも教えられていない」など、下の学校に対する問題指摘である。これでは問題を先送りさせるだけである。異なる学校段階の状況を相互に理解し、議論することで、各段階での内容体系や指導内容の見直し・改善につなげたい。情報教育を充実させるためにも、小中高大をつなぐ縦の連携が必要であろう。

縦の連携とともに重要なのが横の連携である。筆者は本会とともに、技術教育を主対象とする日本産業技術教育学会の会長を務めている。同会では、文科省事業として中学校実践事例集や教員研修用教材、高等学校「情報」実践事例集の作成などにも取り組んでいる<sup>☆1</sup>。同時に、2021年6月には本会コンピュータと教育研究会（CE研）との合同研究会開催を計画したり、本会の教員免許更新講習講座への中学校教員向け内容協力の検討を進めたりと、本会との連携が急速に進んでいる。情報教育・情報関連の他学会も含め、関連諸学会が横に繋がり連携できれば、我が国の情報教育を押し上げる強力な力となるであろう。

小中高大一貫の情報教育実現のためには、今こそさまざまな学校段階、学会の垣根を越えて、縦と横に連携することを実現したい。ここで本会が果たす役割と期待は大きいのではないだろうか。

<sup>☆1</sup> 日本産業技術教育学会の各種資料、<https://www.jste.jp/main/announce.html>



村松浩幸（信州大学）（正会員） muramatu@shinshu-u.ac.jp

信州大学学術研究院教育学系教授、附属次世代型学び研究開発センター長、博士（学校教育学）、日本産業技術教育学会会長、NHK高専ロボコン審査員、文部科学大臣表彰「科学技術賞理解増進部門」など。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno